

2022年度より理学部2学科が名称変更(届出中*)



日本女子大学に、私立女子大学で唯一の「理学部」が設立されて30年を迎えます。学びの内容をより分かりやすく届けるべく、新しい学科名に変更します。

【数物情報科学科】では、数学や物理という基盤的な教育に加えて、AI・データサイエンスなど最新の情報科学が学べます。

【化学生命科学科】では、地球温暖化をはじめとするグローバルな環境問題を解決する鍵となる、化学と生命科学の両方を幹として学ぶことができます。

理学部は、最新の情報科学と分野融合的な学びを通して論理的・科学的思考力を養い、国際社会の問題解決に取り組み、社会の期待に応える人材を育てます。

※本計画は届出中であり、内容は変更となる場合があります。



実験・実習を重視し、充実した実験施設で少人数によるきめこまやかな指導が行われています。

日本女子大学 理学部

社会が求める

“広い視野と専門性を備えた人材”を育成

日本女子大学は国内で唯一、理学部を有する私立女子大学です。理学部は、広い視野を培う教育と専門性の高い先端研究が本学の特色です。2022年度には社会の変化に応えるため学科名称を変更いたします。*

複数分野の学びと 実験・実習を重視した教育

日本女子大学理学部は1992年の設置以来、伝統的に複数の学問分野を学ぶカリキュラムで自然科学的思考を持つ人材を育ててきました。現在の数物科学科は「数学」、「物理」、「情報」、物質生物科学科は「化学」、「生物」の各分野を広く学んだ後に、卒業研究に向けて専門性を高めます。複数の分野を学ぶことで視野を広げ、社会の課題解決に貢献できる人材を育成することがその目的です。

例えば、化学物質による環境汚染と人体への影響などの環境問題の解決には、化学と生物学の両分野の知識が必要です。現代社会は様々な課題が複雑化しています。そのため、複数の分野の知識を総動員して課題解決に取り組みむ必要があるのです。理学部の学びと一言で、多くの人が「深く狭く学ぶ」というイメージを抱くかも知れませんが、しかし、本学では、広く学んだ上で専門性を高める仕組みにしています。それが社会の課題を解決できる能力を持つ人材、換言すれば、社会で求められる人材の育成に必要なからです。ここが他大学の理学部とは異なる、教育上の大きな特徴の一つです。

さらに、もう一つの特徴は、大学創立当初から大切にしてきた「実物教育」です。これは創立者成瀬仁蔵が示した考え方で、現代の言葉にすれば「実践教育」と言えるでしょう。理学部の教育では、実験・実習の重視という特徴につながります。自然現象などの理解を深めるためには、実験・実習によって自ら体験することが不可欠です。また、実験は一人だけではできません。学生同士が協力して、それぞれが役割を果たすことが大切です。つまり、実験・実習は社会で求められる、チームで協働する力の育成にも役立っています。理学部の日々の学びには、社会に出てから必要な力を培い、科学的思考を持たせる仕組みが至るところに内在しています。

社会の変化に対応するため 学科名称を変更

学問分野としての理学は、人類が多くの時間をかけて築き上げた強固な体系を持っています。しかし、本学は伝統の継承のみに留まらず、社会の変化に応じて学びの内容を向上させてきました。近年では、AI（人工知能）、ゲノム（遺伝情報）、ファイナンスなどの分野のほか、目まぐるしく変化する情報環境にも対応し、情報教

育の内容も常に更新し続けていきます。学科の名称変更もこうした動きの延長線上にあり、理学部は2022年度には、「数物情報科学科」、「化学生命科学科」となります。*



日本女子大学 理学部長
奥村幸子 教授

こうして得られた研究費で最新の電子顕微鏡などの研究設備を充実させ、学生の実験でも使用しています。このほかにも1年次から最新の研究トピックスをオムニバス形式で学ぶ授業など、低学年から先端研究に触れる機会を設けています。様々な実験・実習を通して、教育と研究の両輪で社会が求める人材を育てていきます。

Message from OG

卒業生紹介

ゼブラ株式会社
HRM本部 HRM部 人事運用課
堤 恵梨香さん



2006年3月 理学部物質生物科学科卒業、2008年3月 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 修士課程修了。同年4月 ゼブラ株式会社入社。研究・開発職を経て2013年4月から現職。

学生時代の一番の思い出は、3年生での遺伝学実験です。実験の手順から必要な下準備まで全て自分たちで行いました。つらいこともありましたが、失敗したらなぜ失敗したのかを皆で考えるなど、大きく成長できました。

就職活動では「自分の好きなことはなんだろう」と振り返り、書くことや文房具が好きだと思い当たり、ご縁があってゼブラに入社しました。

入社当初は研究部でインクの開発をしていましたが、やがて研究以外の様々な分野でも会社や世の中に寄与できる仕事がしたいと思い、人事部門に異動しました。これからも働く方々の能力を生かし生活を守ることで社員も会社も共に成長し、長く働ける環境を整えていきたいです。

理学部 主な就職先(2021年3月卒業)

日本電気、富士通、大日本印刷、日立製作所、日本銀行、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、森永乳業、凸版印刷、花王、協和キリン、ゼリア新薬工業、アンリツ、富士フイルムビジネスソリューション(旧 富士ゼロックス)、三菱電機、ヤマハ発動機、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ、東日本電信電話、日本放送協会、日本アイ・ピー・エム、アクセンチュア 他